■『まんなかビジョン』の構成■

現状認識

【変革期にある我が国の経済社会】

①低迷を続ける我が国の経済
②少子・高齢化の急速な進行
③循環型社会への模索
④行財政システムの変革
⑤高度情報化の進展

【中部の特性】

①地理的特性「日本のまんなか」
②生活的特性「分散型地域構造」
③産業の特性「卓越した産業集積」

【中部の現状と課題】

①過渡期にある中部の産業
②国際競争力強化が求められる国際物流・国際交流基盤
③対策強化が望まれる環境問題
④国際的な魅力の乏しい名古屋と分散する拠点性の高い都市
⑤農山漁村地域の活力低下と交通ネットワーク整備の遅れ
⑥未成熟な中部地方の観光
⑦充分な対応が望まれる地震対策や都市型水害
⑧着実な対策が望まれる渇水問題や土砂災害
⑨悪化する地方財政

地域の声

【有識者からの声】

まんなか懇談会
今後の社会資本整備のあり方や国土交通行政のあり方を含めた中部の目指すべき方向について、各界の代表者から提言・意見を伺いました（委員13名計5回開催）

【経済界からの声】

企業ヒアリング
産業競争力の強化や地域の魅力に関する企業ヒアリングを実施し（50企業・団体）、国際競争力や新産業の創出をたかめるためのニーズ等について意見集約を行いました。

【市町村からの声】

市町村長ヒアリング・アンケート
中部地方の市町村長（364市町村）に対して、地域づくりに関するヒアリングやアンケートを実施、地域づくりの考え方や重点施策等について意見集約しました。

【地域住民からの声】

まんなかビジョン討論会
地域住民の方を対象として、中部地域の8会場で開催し、討論会やアンケート調査で多数のご意見を頂きました（参加者総数726人）

基本的スタンス

既存ストックの活用	コスト縮減・技術開発、重点化・効率化	環境共生	民間活力の活用
分野間の連携強化	ハード・ソフト施策の戦略的組み合わせ	住民参画	IT活用

中部の目指すべき方向（7つの目標）

中部の将来像『日本のまんなかである地理的優位性を活かし、暮らし・産業が調和した、世界に誇れる中部の創造』

Ⅰ．モノづくりなど産業の国際競争力の強化	Ⅱ．世界都市を目指した名古屋と各拠点都市の魅力向上	Ⅲ．東海環状都市圏・環伊勢湾広域交流圏などの形成による新たな交流の拡大	Ⅳ．日本のまんなかである優位性を活かし、国土の東西・南北軸の強化や交流拠点整備による国内外交流の推進	Ⅴ．中部の豊かな自然環境、歴史、文化などを活かした地域づくり・観光振興	Ⅵ．誰もが生き生きとして暮らせる豊かでゆったりとした生活環境の実現	Ⅶ．東海地震をはじめとした災害に強い安全・安心な地域づくり
具体的な目標：4 主なプロジェクト：3	具体的な目標：8 主なプロジェクト：3	具体的な目標：2 主なプロジェクト：1	具体的な目標：6 主なプロジェクト：2	具体的な目標：8 主なプロジェクト：3	具体的な目標：8 主なプロジェクト：3	具体的な目標：4 主なプロジェクト：3

3つのフォローアップ指針

【不断のフォローアップ】

①アウトカム指標の提示
②定期的な評価
③満足度調査の実施と評価結果の公表
④「まんなかビジョン」の見直し

【役割分担の明確化と既存の枠組みを超越した連携】

①行政・企業・国民等との役割分担
②省庁を越えた連携
③県境を越えた連携

【地域本位の行政展開】

①まんなか懇談会の継続的開催
②積極的なPI（パブリック・インボルブメント）の継続
③国土交通広域連携中部会議の設立
④地方公共団体や経済団体等、様々な関係者が計画策定に参加する仕組みの継続
⑤ローカル・ルールの積極的な導入
⑥社会資本整備重点計画などの計画立案への反映